

平成 31 年 (2019 年) 3 月 18 日
山口県病虫害防除所

1 害虫名 : ムナブトヒメスカシバ (*Trichocerota constricta* (Butler))

2 発生作物名 : ブラックベリー

3 特殊報の内容 山口県における被害の初確認

4 発生経過

(1) 発生確認年月日 : 平成 30 年 11 月 5 日

(2) 発生地域 : 長門市

(3) 確認の経緯

施設栽培ブラックベリーにおいて、春先に枝が枯死する被害が発生した。11 月に枝の内部を食害するチョウ目の幼虫を採集し、鳥取大学農学部の中秀司准教授に同定依頼した結果、DNA 鑑定によりムナブトヒメスカシバと判明した。

(4) 発生状況等

本州、四国、九州に分布する。

5 本虫の特徴

(1) 被害の状況

幼虫は枝に穴をあけ、虫糞を排出する (図 1)。枝の内部は食害されて空洞になる (図 2)。幼虫は白色で、頭部および前胸背は褐色である (図 3)。加害を受けた枝は春になると枯れ込む。加害部位は樹の中央から下の部分が多い。

(2) 形態

日本に分布するスカシバ科の中で最も小型で、翅の開長は雄が 14.5~18mm、雌が 17~22mm である。前翅は細く、透明紋は小さい。全体的に黒色だが、雌雄とも腹部背面に二本の黄色の帯、腹端背面に黄色の毛束を持つ。中脚を上にも跳ね上げ、前方へ伸ばして静止する (図 4)。

(3) 生態

6~7月に成虫が羽化し、夏に産卵を行う。幼虫は枝に食入し、樹皮の穴から虫糞を外に出す。幼虫の食害は秋から翌年の春にかけて進行する。

寄主としてノイバラ、バラ、ベリー類などが知られる。

6 防除対策

(1) 施設開口部に防虫ネットを展張して侵入を防止する。

(2) 秋期に虫糞を目印に加害場所を見つけ、針金で刺殺する。

(3) 本種に登録されている農薬はない。



図1 虫糞の排出



図2 枝の内部の被害



図3 中齢幼虫



図4 成虫 (鳥取大学 中准教授提供)